

○高鍋町総合計画策定のための町民意識調査結果概要

調査対象

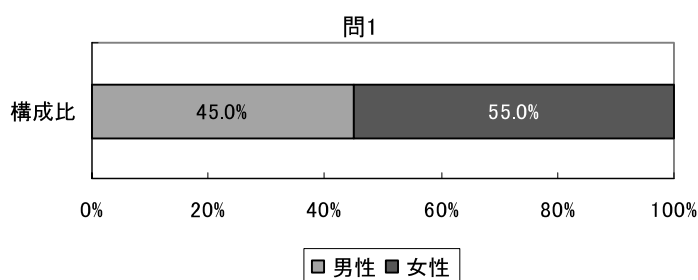
町内に居住する 20 歳以上の男女 2,000 名

回収率 46.1%(回答数 921)

回答者の属性

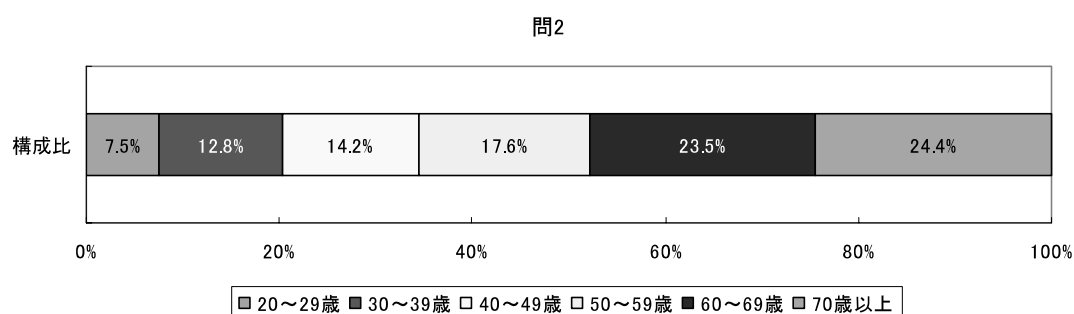
問1 性別について

回答者のうち男性は 45.0%、女性は 55.0%となっている。



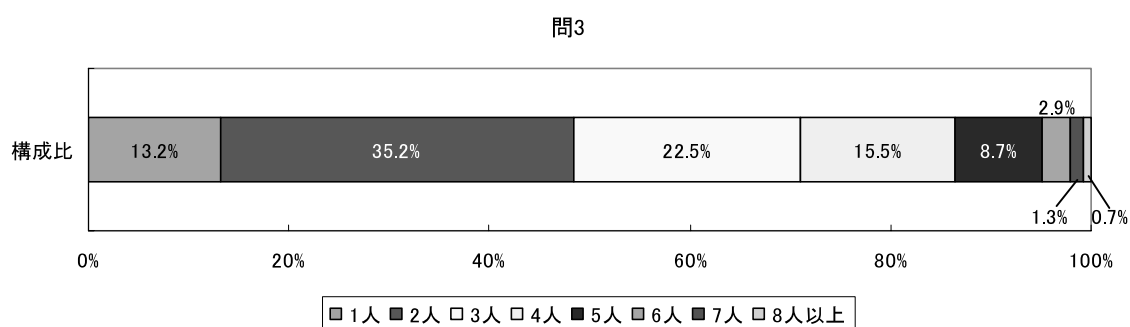
問2 年齢について

70 歳以上の割合が 24.4%と最も高くなっており、60～69 歳が 23.5%、50～59 歳が 17.6%と続いている。



問3 同居家族人数について

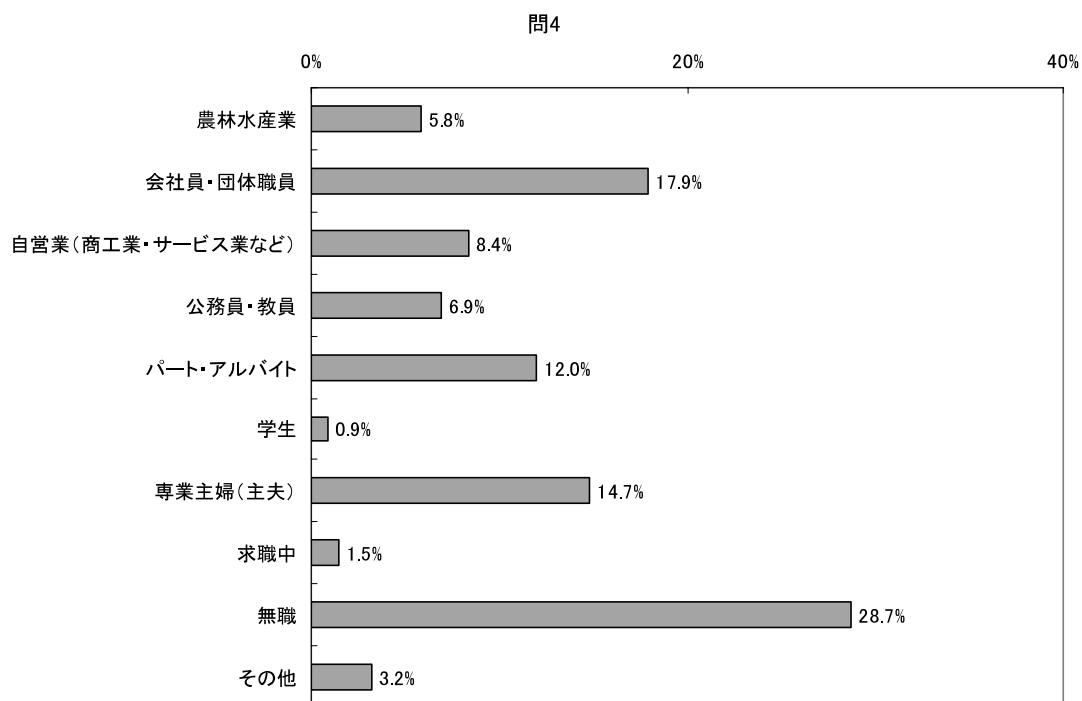
同居家族の人数については、2 人の割合が 35.2%と最も高くなっており、次いで、3 人が 22.5%、4 人が 15.5%、1 人が 13.2%となっている。



問4 職業について

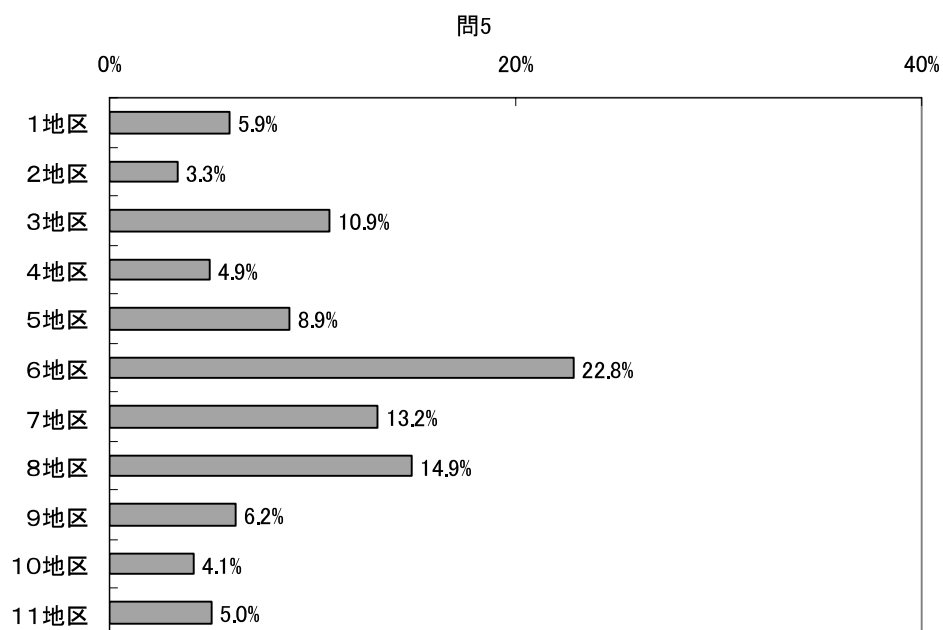
無職の割合が最も高く 28.7%となっている。次いで、会社員・団体職員が 17.9%、専業主婦（主夫）が 14.7%、パート・アルバイトが 12.0%となっている。

無職の割合が最も高い理由として、60～69 歳、70 以上の回答者割合の合計が 47.9%と半数近くを占めていることが考えられる。



問5 住んでいる地区について

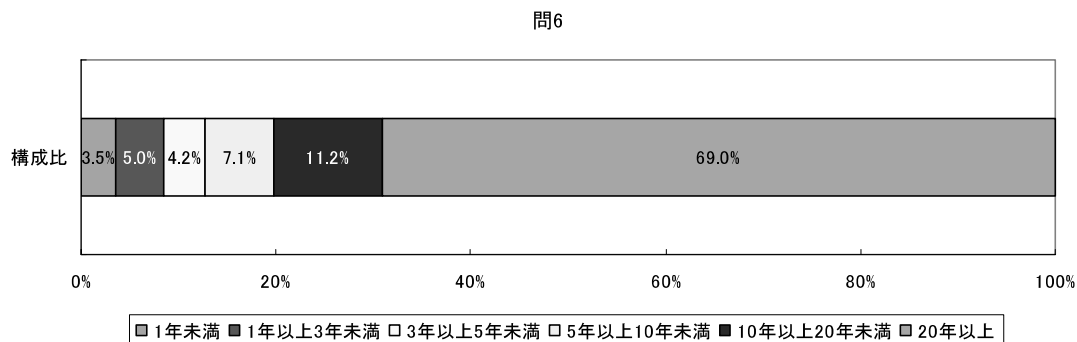
6地区の割合が 22.8%と最も高くなっており、次いで、8地区が 14.9%、7地区が 13.2%となっている。



「高鍋町での生活」について

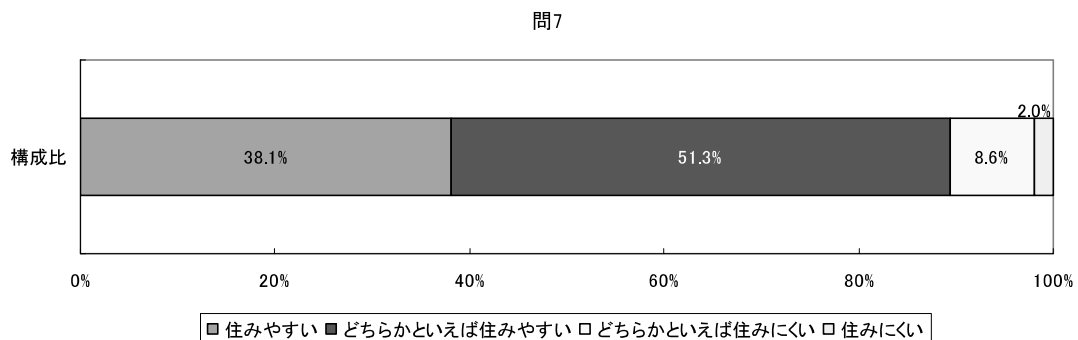
問6 高鍋町での居住年数

20年以上が69.0%と全体の7割近くを占めており、次いで10年以上20年未満が11.2%となっている。回答者のうち、およそ8割が高鍋町での居住年数は10年以上となっている。



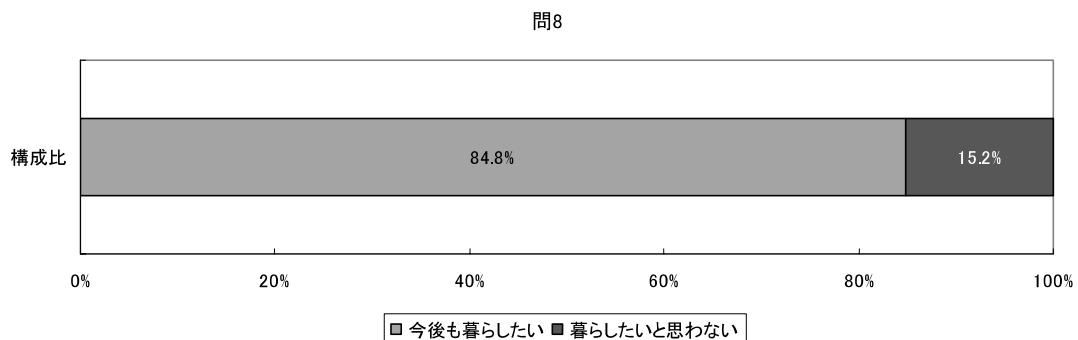
問7 高鍋町の住みごちについて

どちらかといえば住みやすいは51.3%と、半数近くを占めており、住みやすいは38.1%となっている。一方、どちらかといえば住みにくいのは8.6%、住みにくいのは2.0%となっている。



問8 今後の居留意向について

今後も暮らしたいは84.8%、暮らしたいと思わないのは15.2%となっている。



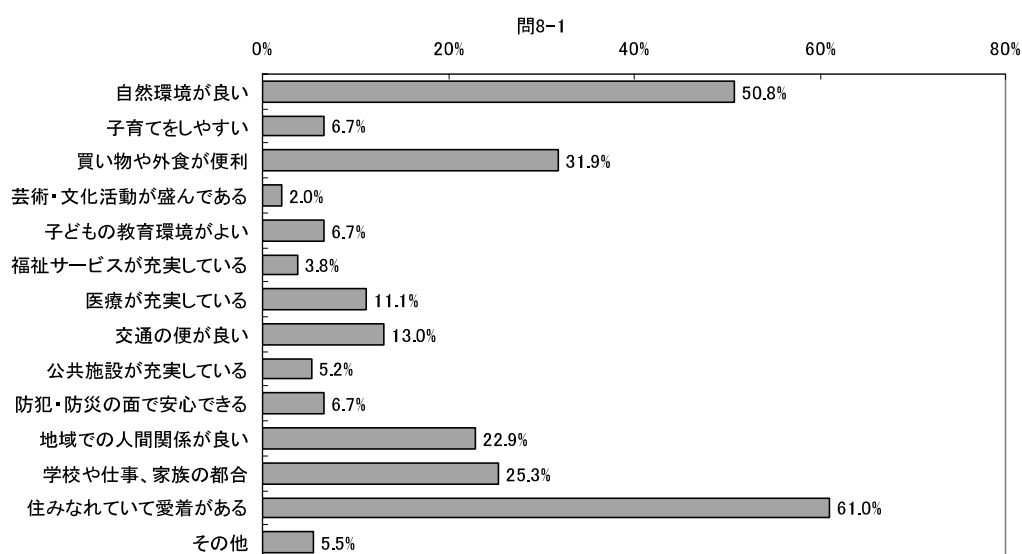
問8-1 今後も暮らしたい理由について

問8において、今後も暮らしたいを選択した回答者のうち、その理由として、住みなれていて愛着があるの割合が 61.0%と最も高く、次いで、自然環境が良いが 50.8%となっている。続いて割合が高いものとして、買い物や外食が便利は 31.9%、学校や仕事、家族の都合が 25.3%、地域での人間関係が良いが 22.9%となっている。

男女別では、男女ともに住みなれていて愛着があるの割合が男性(60.9%)、女性(61.0%)と最も高く、次いで、自然環境が良いが、男性(52.6%)、女性(49.4%)となっている。

年齢別では、30～39 歳以外の年代で、住みなれていて愛着があるの割合が高くなっている。その一方、学校や仕事、家族の都合では、30～39 歳の割合が 63.0%と、他の年代よりも突出して高い。

地区別では、1 地区、2 地区、10 地区、11 地区で住みなれていて愛着があるの割合が他の地区よりも比較的高くなっている。



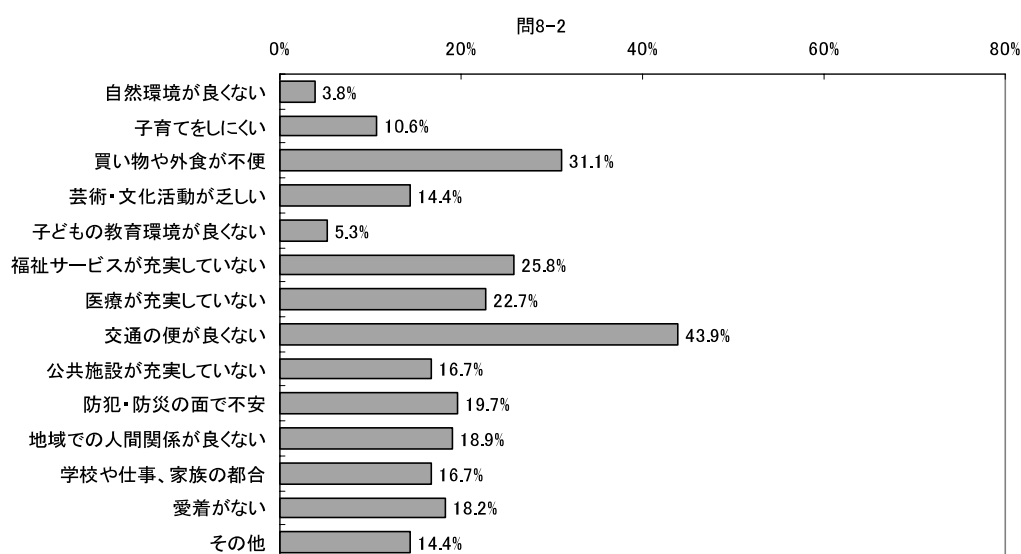
問8-2 暮らしたいと思わない理由について

問8において、暮らしたいとは思わないを選択した回答者のうち、交通の便が良くないの割合が最も高く43.9%となっている。以下、買い物や外食が不便が31.1%、福祉サービスが充実していないが25.8%、医療が充実していないが22.7%と続いている。

男女別では、男女ともに交通の便が良くないが高く、男性(47.7%)、女性(40.9%)となっている。買い物や外食が不便では、女性の割合が36.4%と男性の26.2%よりも高くなっている一方で、福祉サービスが充実していないでは、男性の割合が27.7%と、女性の24.2%よりも若干高い割合となっている。

年齢別では、すべての年代で交通の便が良くないの割合が高くなっている。また、20～29歳では、買い物や外食が不便の割合が43.5%、60～69歳では、防犯・防災の面で不安が47.4%と他の年代よりも比較的高い傾向にある。

地区別では、2地区で交通の便が良くないの割合が87.5%と他の地区よりも割合が高くなっている。



「高鍋町のまちづくりに対する評価」について

問9 各分野における現状の満足度

満足度について、「満足している」に+3点、「どちらかといえば満足」に+1点、「どちらかといえば不満」に-1点、「不満である」に-3点とし、合計を「わからない」「無回答」を除いた回答数で割り、満足度の平均値を算出している。平均値が0を上回れば満足度を示し、0を下回れば不満度を示す。

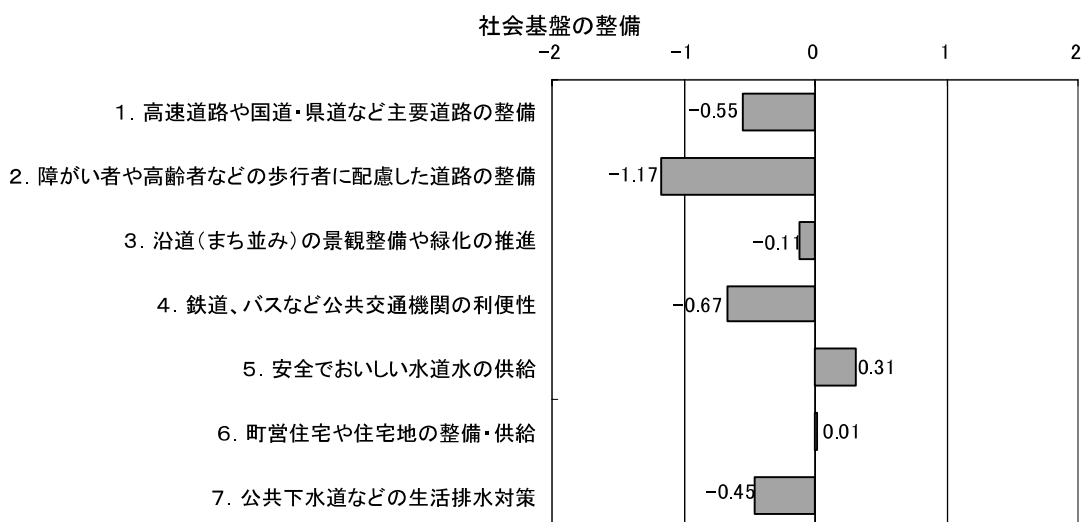
・社会基盤の整備

「安全でおいしい水道水の供給」「町営住宅や住宅地の整備・供給」では満足度を示しているものの、全体として不満度が高くなっている。特に「障がい者や高齢者などの歩行者に配慮した道路の整備」における不満度の値が-1.17と町民からの評価は厳しいものとなっている。

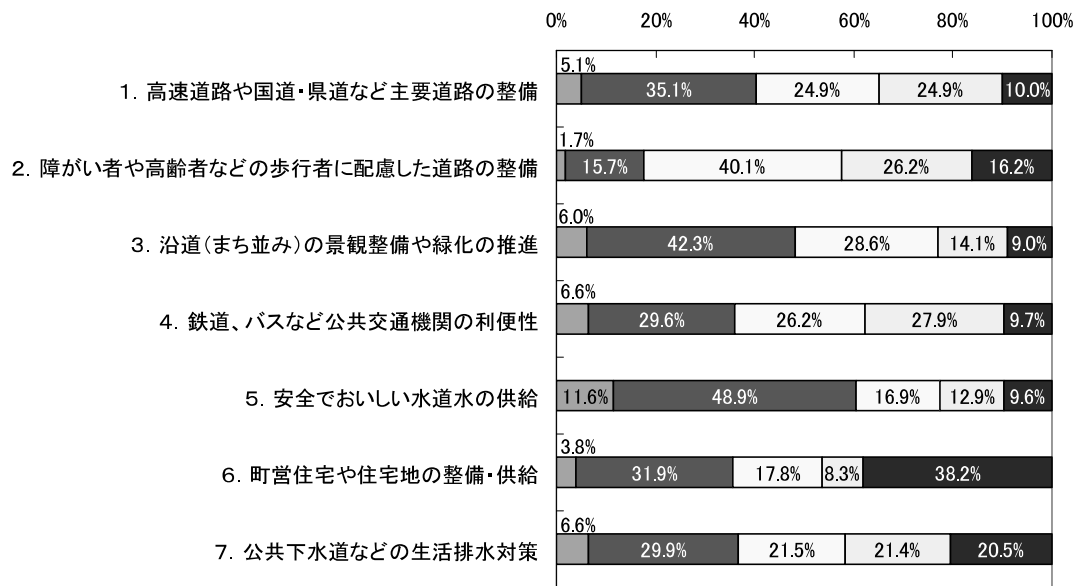
男女別では、「沿道(まち並み)の景観整備や緑化の推進」について、女性のどちらかといえば満足の割合が男性を上回っており、半面、男性のどちらかといえば不満の割合が女性よりも高い。「安全でおいしい水道水の供給」では、男性でどちらかといえば満足の割合が女性よりも高くなっている。

年齢別では、「障がい者や高齢者などの歩行者に配慮した道路の整備」について、40～49歳のどちらかといえば不満、不満であるの合計の割合が他の世代よりも高くなっている。

地区別では、「鉄道、バスなど公共交通機関の利便性」について、1地区の満足している、どちらかといえば満足の割合が他の地区よりも高い傾向にある。また、「公共下水道などの生活排水対策」については、4地区における満足している、どちらかといえば満足の割合が他の地区よりも比較的高くなっている。



問9 社会基盤の整備



☐ 満足している
 ☐ どちらかといえば満足
 ☐ どちらかといえば不満
 ☐ 不満である
 ☐ わからない

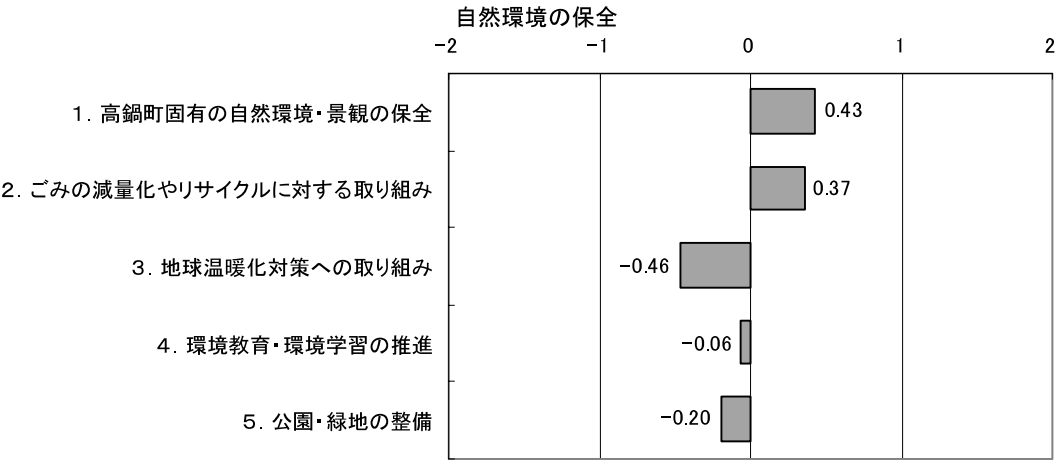
・自然環境の保全

「高鍋町固有の自然環境・景観の保全」「ごみの減量化やリサイクルに対する取り組み」については、町民からの満足度は比較的高くなっているものの、「地球温暖化対策への取り組み」については、不満度の値が比較的高い状況にある。

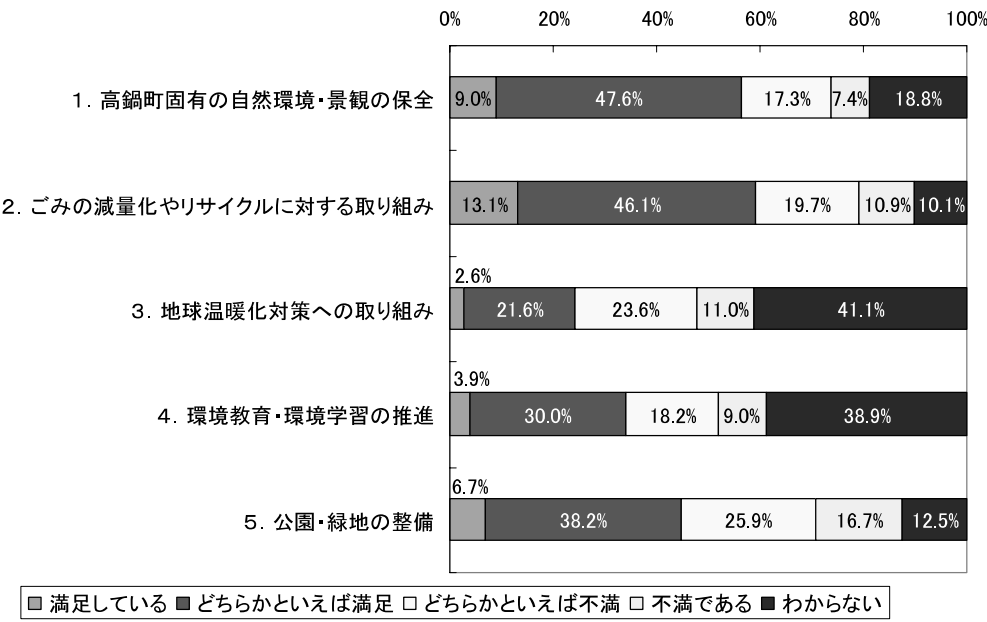
男女別では、「ごみの減量化やリサイクルに対する取り組み」について、どちらかといえば満足 of 割合が男性よりも女性について高くなっている。

年齢別では、「高鍋町固有の自然環境・景観の保全」「ごみの減量化やリサイクルに対する取り組み」について、すべての年代で満足である、どちらかといえば満足 of 割合が高くなっている。また、「環境教育・環境学習の推進」については、わからない of 割合が 20～29 歳で特に高くなっている。

地区別では、全体として似た傾向にあるものの、「ごみの減量化やリサイクルに対する取り組み」では、9 地区の満足している、どちらかといえば満足 of 割合は、他の地区よりも低い傾向にある。



問9 自然環境の保全



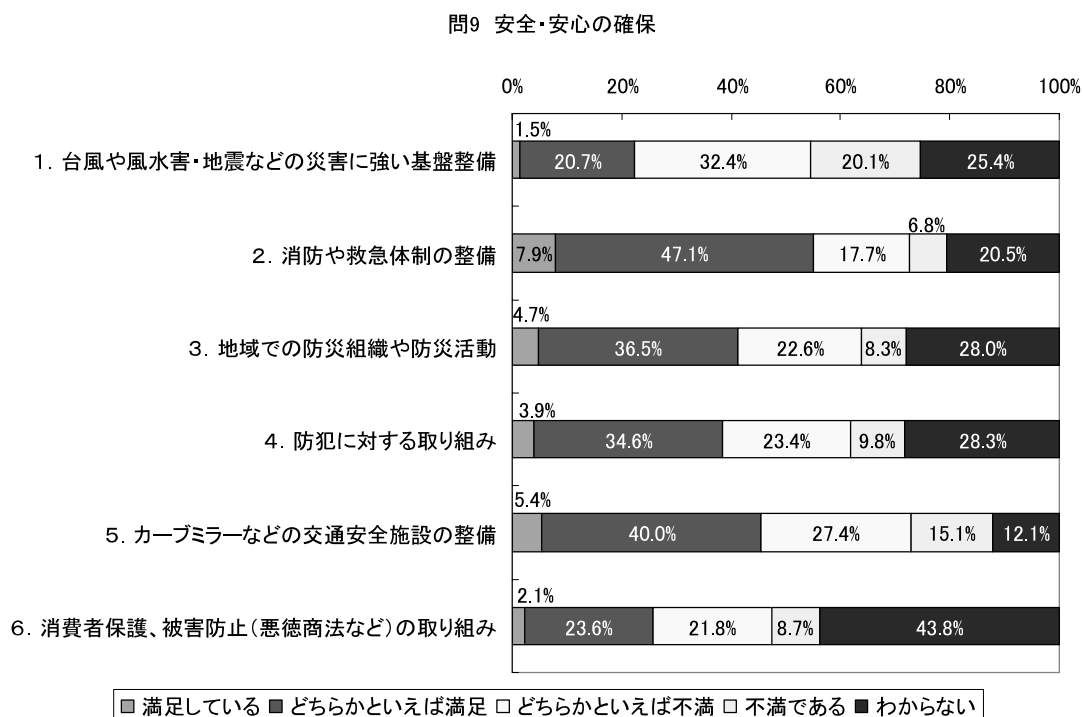
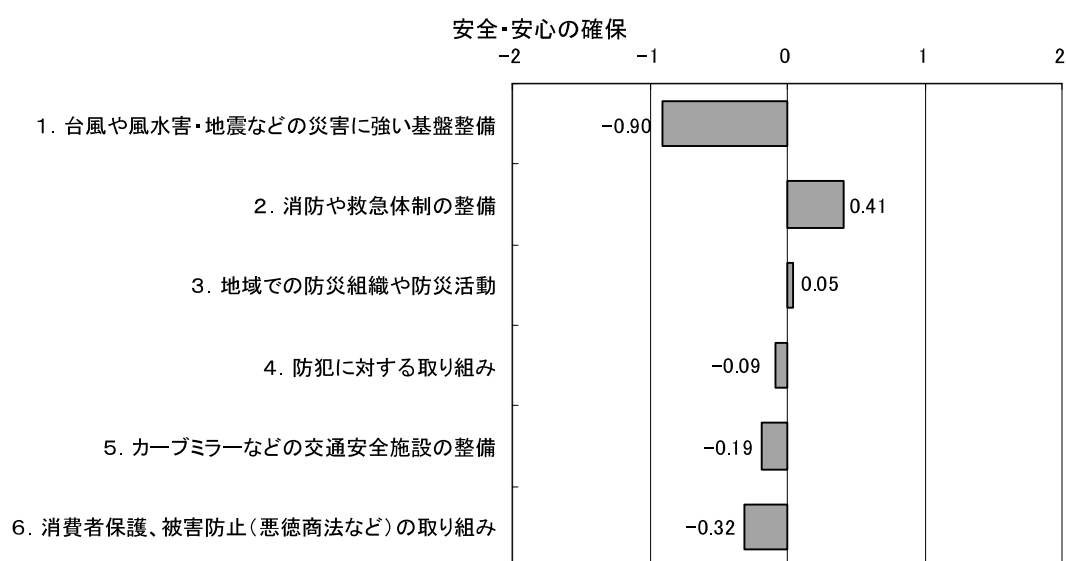
・安全・安心の確保

「消防や救急体制の整備」「地域での防災組織や防災活動」では、満足度を示しているが、その他については、不満度を示している。特に、「台風や風水害・地震などの災害に強い基盤整備」について、不満度の値が高くなっている。

男女別では、「カーブミラーなどの交通安全施設の整備」について、どちらかといえば満足の割合が女性よりも男性の方が高い。また、全体として、女性のわからないの割合が男性よりも高くなっている。

年齢別では、「消防や救急体制の整備」について、60～69 歳、70 歳以上において、満足している、どちらかといえば満足の割合が他の世代よりも比較的高くなっている。「カーブミラーなどの交通安全施設の整備」では、20～29 歳における満足している、どちらかといえば満足の割合が他の年代よりも低くなっている。

地区別での満足している、どちらかといえば満足の割合が比較的高いものとして、「消防や救急体制の整備」について 10 地区、「防犯に対する取り組み」では、6 地区、「カーブミラーなどの交通安全施設の整備」では 2 地区となっている。



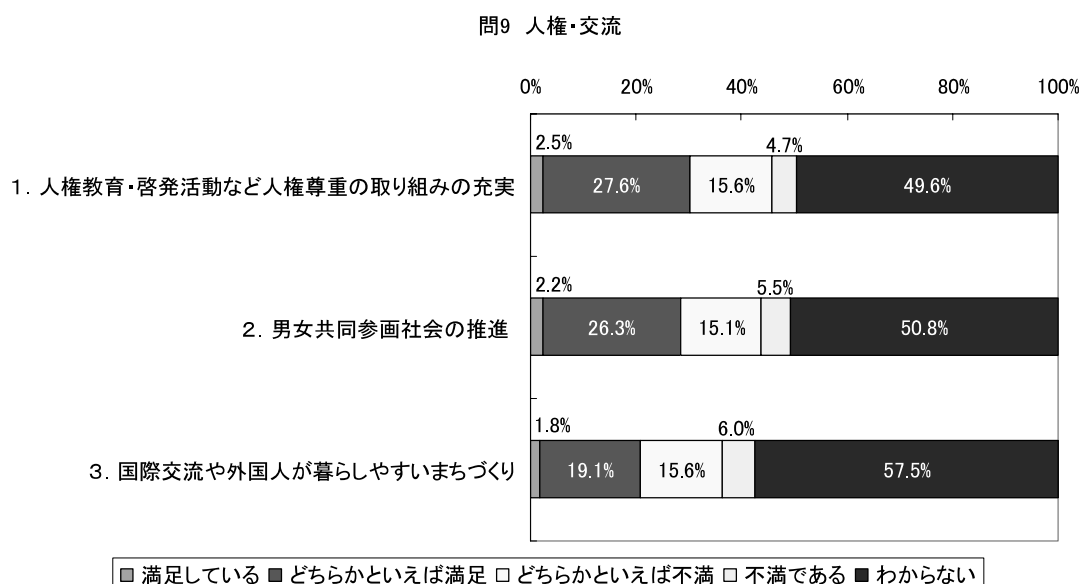
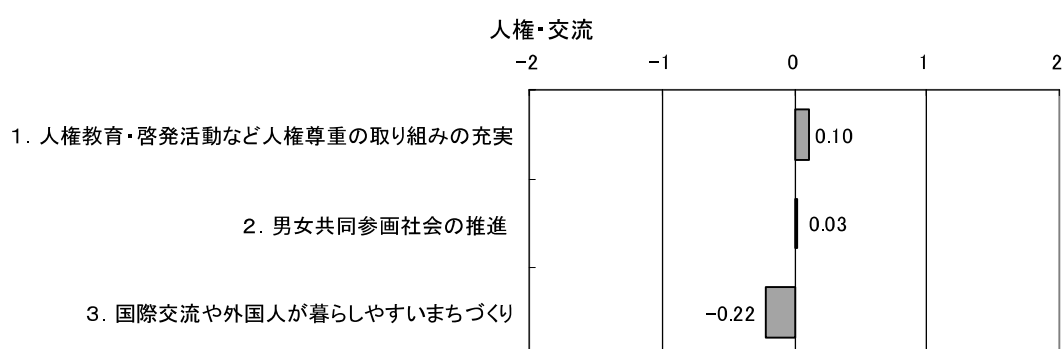
・人権・交流

「人権教育・啓発活動などの人権尊重の取り組みの充実」「男女共同参画社会の推進」では満足度を示しており、「国際交流や外国人が暮らしやすいまちづくり」では、不満度を示している。

男女別では、どちらかといえば満足の割合が女性よりも男性が高くなっているものの、「国際交流や外国人が暮らしやすいまちづくり」については、どちらかといえば不満の割合が男性の割合が女性よりも高くなっている。

年齢別では、30～39 歳における「人権教育・啓発活動などの人権尊重の取り組みの充実」でのどちらかといえば不満、不満であるの割合が他の年代よりも低い傾向にある。また、「人権教育・啓発活動などの人権尊重の取り組みの充実」「男女共同参画社会の推進」について、20～29 歳でわからないの割合が高い。

地区別では、「人権教育・啓発活動などの人権尊重の取り組みの充実」について、11 地区でわからないの割合が特に高くなっている。



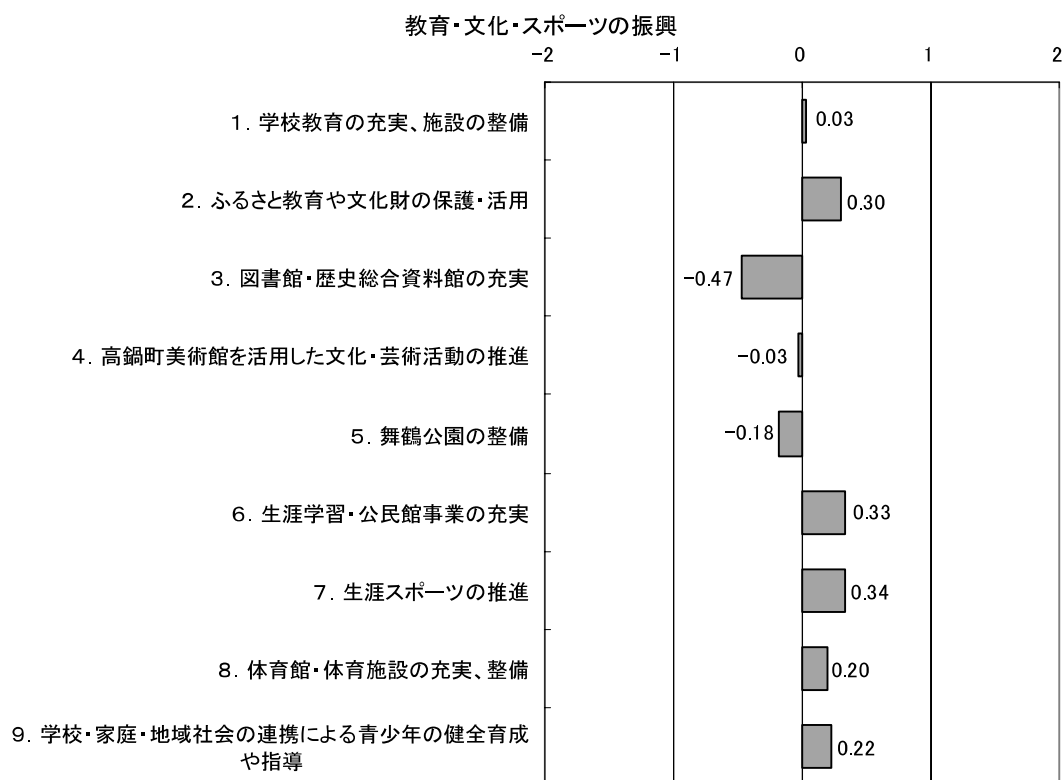
・教育・文化・スポーツの振興

「図書館・歴史総合資料館の充実」「高鍋町美術館を活用した文化・芸術活動の推進」「舞鶴公園の整備」を除く項目について、満足度を示している。「図書館・歴史総合資料館の充実」については、不満度が-0.47と他の項目よりも値が相対的に高くなっている。

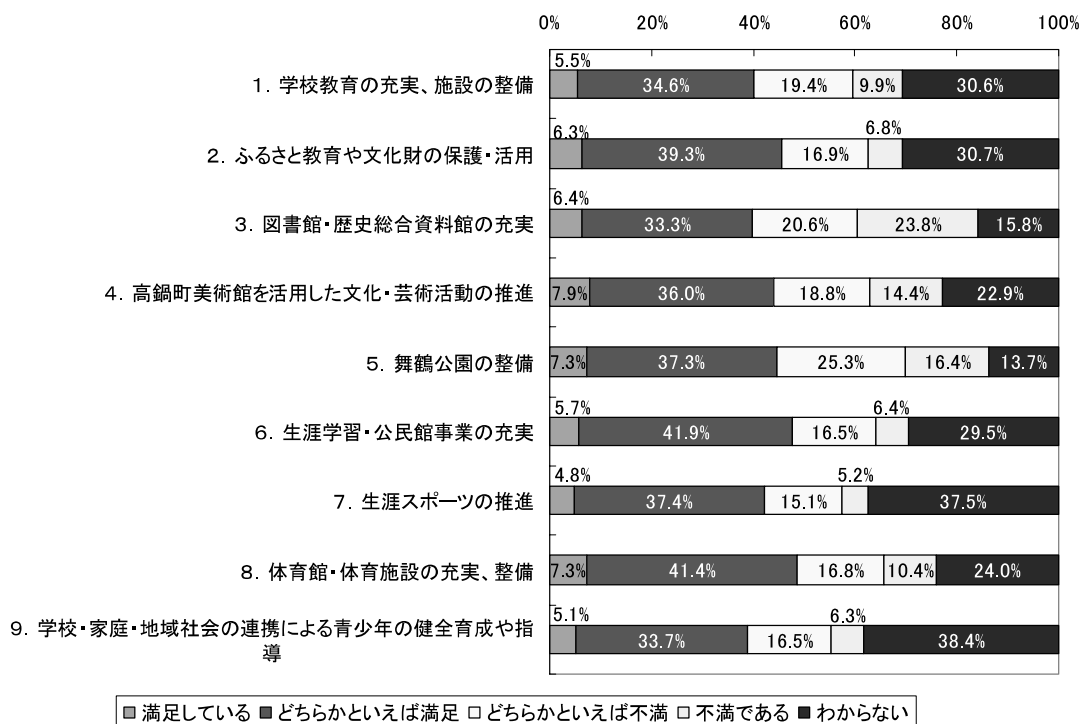
男女別では、「学校教育の充実、施設の整備」で男性のどちらかといえば満足の方が女性よりも特になくなっているものの、「生涯スポーツの推進」について、どちらかといえば不満の方が女性よりも高い。また、全体として、女性のわからないの割合が高くなっている。

年齢別では、年代が高くなるほど、「生涯学習・公民館事業の充実」「生涯スポーツの推進」について、どちらかといえば満足の方が高い傾向にある。

地区別では、「ふるさと教育や文化財の保護・活用」について 11 地区では、満足している、どちらかといえば満足の方が他の地区よりも低くなっている。



問9 教育・文化・スポーツの振興



・健康・福祉の充実

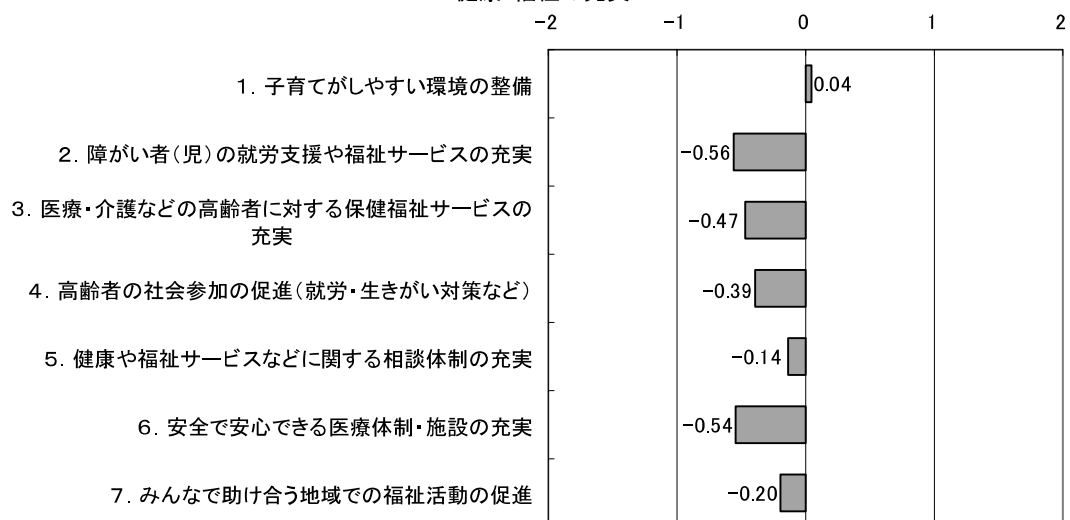
「子育てがしやすい環境の整備」を除く項目について、不満度を示している。特に、「障がい者(児)の就労支援や福祉サービスの充実」「安全で安心できる医療体制・施設の充実」について、値が高くなっている状況にある。

「子育てがしやすい環境の整備」を除く項目について、どちらかといえば満足、どちらかといえば不満の割合がともに女性よりも男性が高くなっている。女性については、わからないの割合が高い。

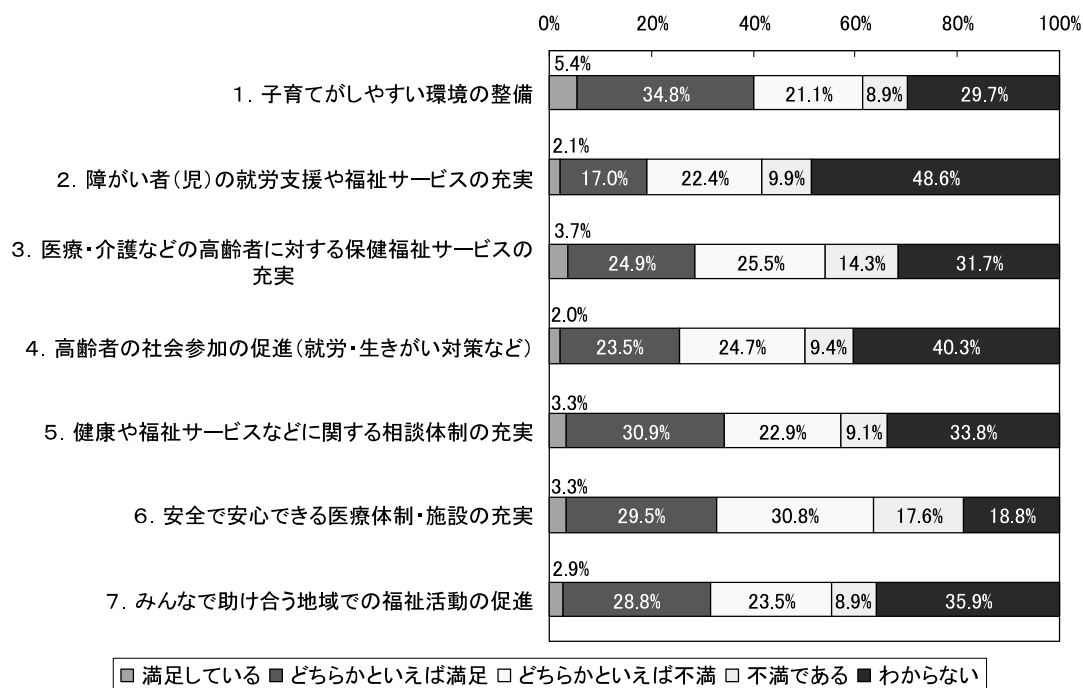
年齢別では、「子育てがしやすい環境の整備」を除く項目について、40～49歳の満足している、どちらかといえば満足の割合が低くなっている。また、「医療・介護などの高齢者に対する保健福祉サービスの充実」「安全で安心できる医療体制・施設の充実」「みんなで助け合う地域での福祉活動」については、50～59歳の満足している、どちらかといえば満足の割合も低くなっている。

地区別では、「子育てがしやすい環境の整備」については、9地区でわからないの割合が高く、満足している、どちらかといえば満足の割合が他の地区よりも低い。「高齢者の社会参加の促進(就労・生きがい対策など)」「健康や福祉サービスなどに関する相談体制の充実」「みんなで助け合う地域での福祉活動の促進」については、11地区での満足している、どちらかといえば満足の割合が他の地区よりも低い傾向にある。

健康・福祉の充実



問9 健康・福祉の充実



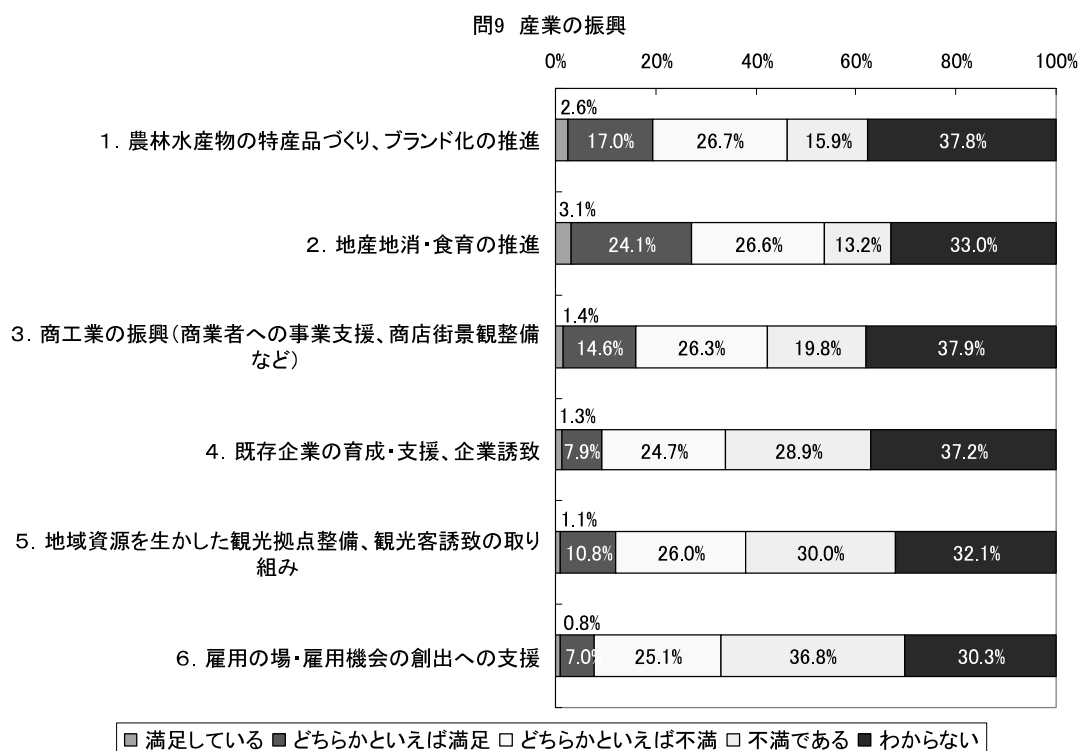
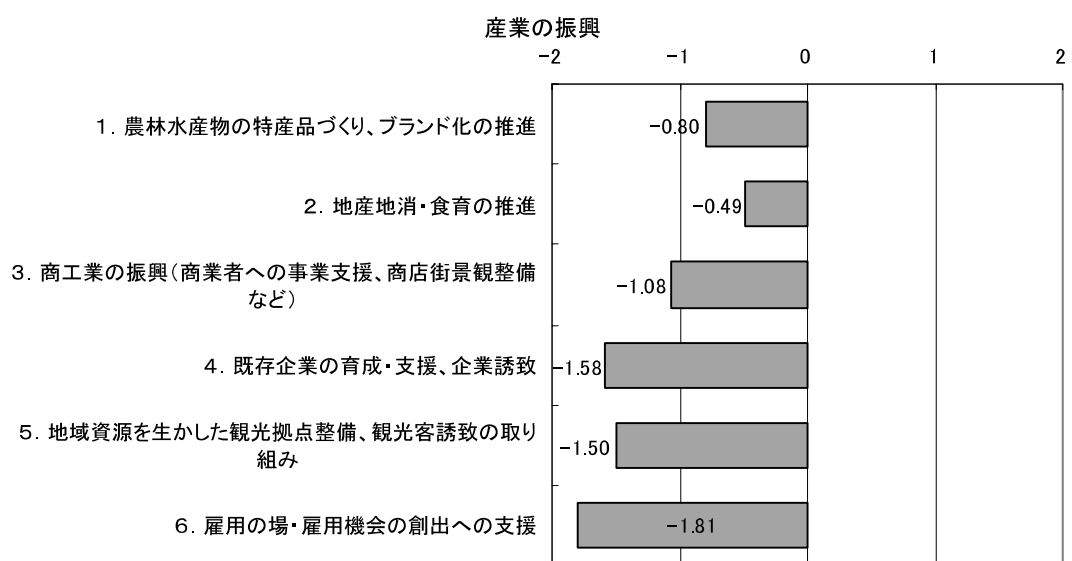
・産業の振興

すべての項目について、不満度を示しており、また、他の分野と比較して、全体的に不満度の値は高く、町民からの評価は厳しい。「雇用の場・雇用機会の創出への支援」の不満度の値は-1.81 となっており、最も高い。以下、「既存企業の育成・支援、企業誘致」「地域資源を生かした観光拠点整備、観光客誘致の取り組み」「商工業の振興（商業者への事業支援、商店街景観整備など）」「農林水産物の特産品づくり、ブランド化の推進」「地産地消・食育の推進」となっている。

男女別では全体として、どちらかといえば不満、不満であるの割合が女性よりも男性が高い。

年齢別では、全体としてどちらかといえば不満、不満であるの割合が高くなっているものの、「地産地消・食育の推進」については、30～39 歳の満足している、どちらかといえば満足の割合が他の年代よりも比較的高い傾向にある。

地区別ではすべての項目において、どちらかといえば不満、不満であるの割合が高い。特に「地産地消・食育の推進」では、2 地区、9 地区、11 地区では、満足している、どちらかといえば満足の割合が低い。



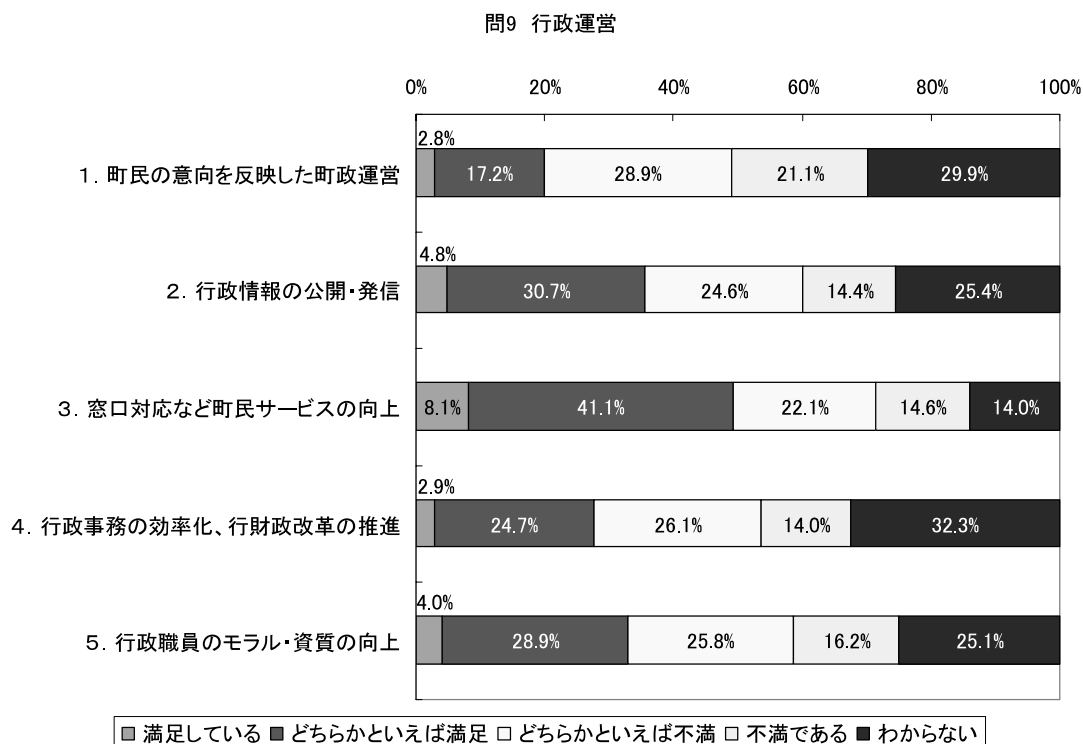
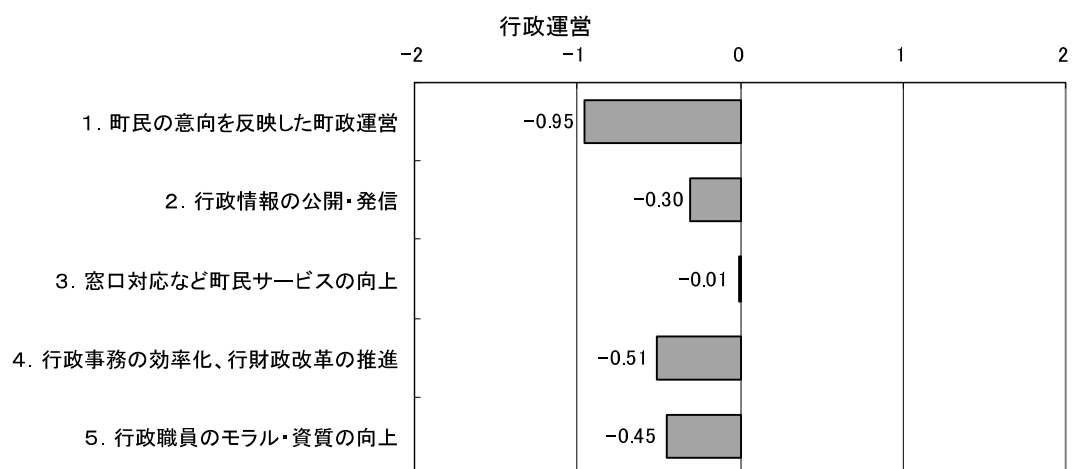
・行政運営

すべての項目について、不満度を示しており、特に「町民の意向を反映した町政運営」の値が-0.95 と最も高く、次いで「行政事務の効率化、行財政改革の推進」「行政職員のモラル・資質の向上」の値が高くなっている。

男女別では、すべての項目について、どちらかといえば不満の割合が女性よりも男性で高くなっている。

年齢別では、「窓口対応など町民サービスの向上」について、年代が高くなるほど、満足している、どちらかといえば満足の割合が高くなる傾向にある。

地区別では、「町民の意向を反映した町政運営」「行政事務の効率化、行財政改革の推進」について、2 地区、11 地区では満足している、どちらかといえば満足の割合が低く、2 地区についてはさらに、「窓口対応など町民サービスの向上」についても割合が低くなっている。



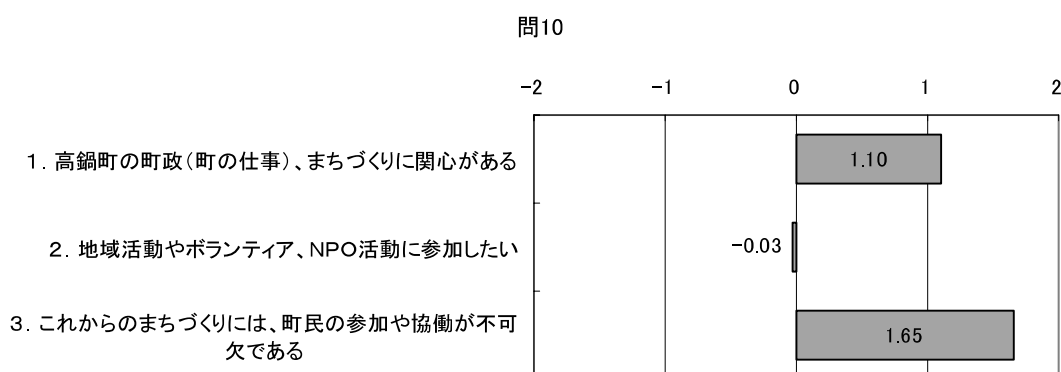
今後の町民参加(協働のまちづくり)について

問10 高鍋町のまちづくりや町民参画について

町民参画の意向について、「そう思う」に+3 点、「ややそう思う」に+1 点、「あまり思わない」に-1 点、「そう思わない」に-3 点とし、合計を「無回答」を除いた回答数で割り、平均値を算出している。平均値が 0 を上回れば町民参画の積極性が高いことを示し、0 を下回ればそうでないことを示している。

なお、この場合の「+と-」については、分析の便宜上、付けている符号であり、良い悪いの判断を示すものではない。

「これからのまちづくりには、町民の参加や協働が不可欠である」の値が 1.65%と最も高く、町民の意識の高さがうかがえる。また、「高鍋町の町政(町の仕事)、まちづくりに関心がある」の値も高い水準であるものの、「地域活動やボランティア、NPO活動に参加したい」では、町民の積極性は低くなっている。



1.「高鍋町の町政(町の仕事)、まちづくりに関心がある」では、ややそう思うの割合は 39.3%と最も高く、次いで、そう思うの割合が高く、35.6%となっており、7 割以上の町民が関心を持っている状況にある。

男女別では、そう思うが男性(39.9%)、女性(31.5%)と男性が女性よりも比較的高い割合にあり、ややそう思うでは、男性(39.2%)、女性(39.5%)となっている。

年齢別では、すべての年代において、ややそう思うの割合が高くなっている。また、50～59 歳、60～69 歳、70 歳以上でそう思うの割合が高く、20～29 歳、40～49 歳ではあまり思わないの割合が高い。30～39 歳では、そう思うとあまり思わないの割合は同程度となっている。

地区別では、3 地区、7 地区、11 地区において、そう思う、ややそう思うの割合が低くなっている。

2.「地域活動やボランティア、NPO活動に参加したい」では、ややそう思うの割合が 38.7%と最も高くなっているものの、あまりそう思わないの割合が 36.1%となっており、町民の考えは大きく二分している状況にある。

男女別では、ややそう思うが男性(42.8%)、女性(35.2%)と男性が女性よりも高い割合にあり、あまり思わないでは、男性(31.8%)、女性(39.3%)と女性の割合が高くなっている。

年齢別では、すべての年代において、ややそう思うとあまり思わないの割合が高くなっている。また、20～29 歳では、そう思わないの割合が他の年代よりも高くなっている。

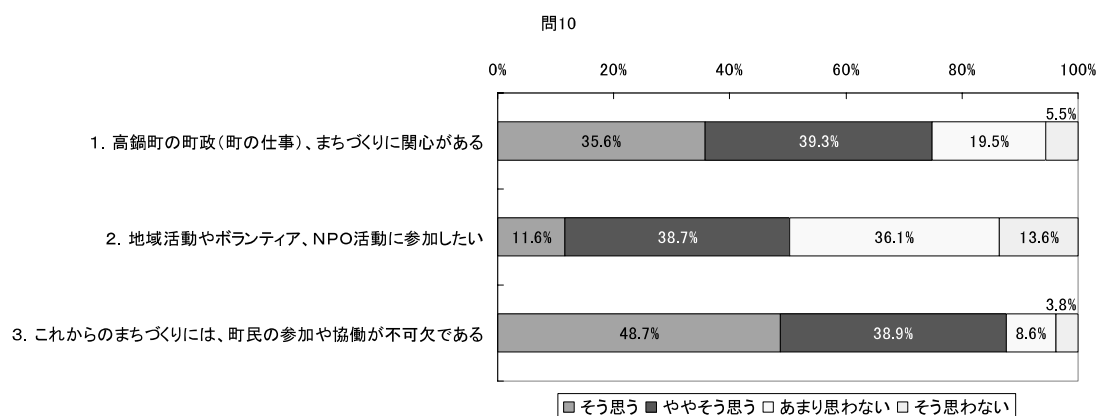
地区別では、3 地区、4 地区、7 地区、11 地区について、あまり思わない、そう思わないの割合が半数以上となっている。

3.「これからのまちづくりには、町民の参加や協働が不可欠である」では、そう思うの割合が最も高く、48.7%となっており、次いで、ややそう思うの割合が 38.9%となっており、9 割近くの町民が、まちづくりには、町民の参加や協働が不可欠であると考えている状況にある。

男女別では、そう思うの割合が男性(51.0%)、女性(46.7%)となっており、ややそう思うでは、男性(37.4%)、女性(40.2%)となっている。

年齢別では、すべての年代において、そう思うの割合が特に高くなっており、ややそう思うの割合も高くなっている。

地区別では、すべての地区において、そう思う、ややそう思うの割合が高いものの、7 地区では他の地区よりもそう思うの割合が低い。



問11 今後、強化すべき町政運営に係る情報提供の取組

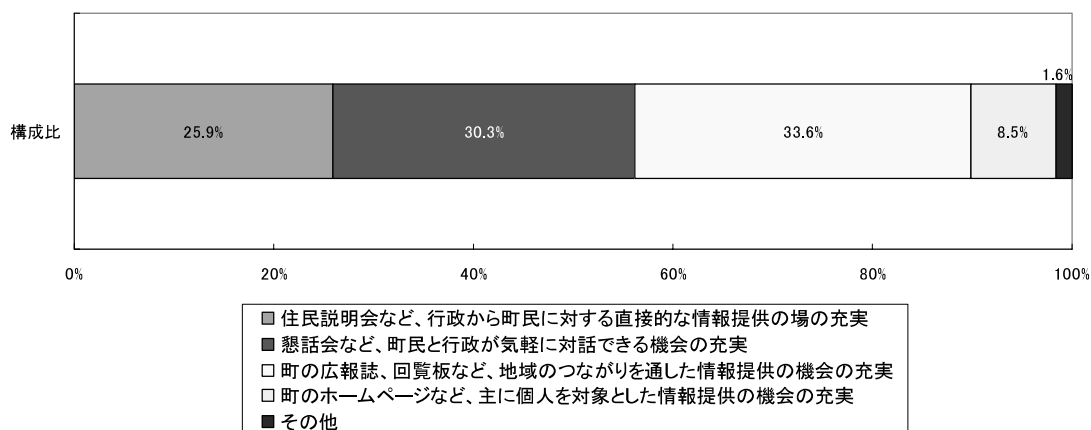
町の広報誌、回覧板など、地域のつながりを通した情報提供の機会の充実の割合が最も高くなっており、33.6%となっている。以下、懇話会など、町民と行政が気軽に対話できる機会の充実が 30.3%、住民説明会など、行政から町民に対する直接的な情報提供の場の充実が 25.9%と割合が高くなっている。

男女別では、男性で懇話会など、町民と行政が気軽に対話できる機会の充実の割合が最も高く、32.4%、次いで、住民説明会など、行政から町民に対する直接的な情報提供の場の充実が 29.6%、町の広報誌、回覧板など、地域のつながりを通した情報提供の機会の充実が 26.5%となっている。女性では、町の広報誌、回覧板など、地域のつながりを通した情報提供の機会の充実が 39.1%と最も高く、次いで、町民と行政が気軽に対話できる機会の充実の割合が 28.8%、住民説明会など、行政から町民に対する直接的な情報提供の場の充実が 23.0%となっている。

年齢別では、20～29 歳、30～39 歳、40～49 歳、70 歳以上で町の広報誌、回覧板など、地域のつながりを通した情報提供の機会の充実の割合が最も高く、70 歳以上では、懇話会など、町民と行政が気軽に対話できる機会の充実の割合も比較的高い。50～59 歳では、住民説明会など、行政から町民に対する直接的な情報提供の場の充実の割合が最も高く、懇話会など、町民と行政が気軽に対話できる機会の充実の割合も高い。60～69 歳では、懇話会など、町民と行政が気軽に対話できる機会の充実の割合が高く、町の広報誌、回覧板など、地域のつながりを通した情報提供の機会の充実の割合も高くなっている。また、年代が低くなるほど、町のホームページなど、主に個人を対象とした情報提供機会の充実の割合が高くなっている。

地区別では、住民説明会など、行政から町民に対する直接的な情報提供の場の充実の割合が最も高い地区として、2 地区、8 地区、10 地区、11 地区となっている。次に、懇話会など、町民と行政が気軽に対話できる機会の充実の割合が最も高い地区としては、1 地区、3 地区、5 地区となっている。、町の広報誌、回覧板など、地域のつながりを通した情報提供の機会の充実の割合が最も高い地区では、4 地区、6 地区、7 地区、9 地区、11 地区となっている。

問11



問12 今後、町民のまちづくりへの参画を図るうえで強化すべき取組

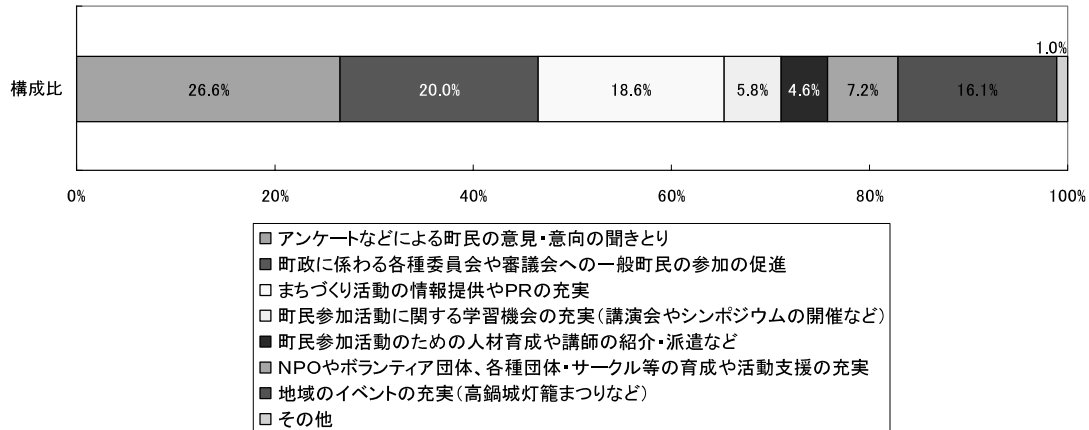
アンケートなどによる町民の意見・意向の聞きとりの割合が最も高く、26.6%となっており、以下、町政に係わる各種委員会や審議会への一般町民の参加の促進が 20.0%、まちづくり活動の情報提供やPRの充実が 18.6%、地域のイベントの充実(高鍋城灯籠まつりなど)が 16.1%と割合が高くなっている。

男女別では、男性で町政に係わる各種委員会や審議会への一般町民の参加の促進の割合が最も高く、25.3%となっており、次いで、アンケートなどによる町民の意見・意向の聞きとりが 24.6%となっている。女性では、アンケートなどによる町民の意見・意向の聞きとりが 28.1%と最も高く、次いで、まちづくり活動の情報提供やPRの充実が 19.4%となっている。

年齢別では、20～29 歳で地域のイベントの充実(高鍋城灯籠まつりなど)の割合が最も高くなっている。30～39 歳では、アンケートなどによる町民の意見・意向の聞きとりと地域のイベントの充実(高鍋城灯籠まつりなど)がともに割合が最も高い。40～49 歳では、アンケートなどによる町民の意見・意向の聞きとりの割合が最も高く、地域のイベントの充実(高鍋城灯籠まつりなど)の割合も比較的高くなっている。50～59 歳では、アンケートなどによる町民の意見・意向の聞きとりの割合が最も高く、まちづくり活動の情報提供やPRの充実の割合も高くなっている。60～69 歳では、アンケートなどによる町民の意見・意向の聞きとりの割合が最も高く、町政に係わる各種委員会や審議会への一般町民の参加の促進、まちづくり活動の情報提供やPRの充実の割合が比較的高くなっている。70 歳以上では、町政に係わる各種委員会や審議会への一般町民の参加の促進の割合が最も高く、アンケートなどによる町民の意見・意向の聞きとりの割合も高い。

地区別では、1 地区、3 地区、6 地区、7 地区、11 地区でアンケートなどによる町民の意見・意向の聞きとりの割合が最も高くなっている。4 地区、5 地区、9 地区、10 地区では、町政に係わる各種委員会や審議会への一般町民の参加の促進の割合が最も高い。2 地区では、まちづくり活動の情報提供やPRの充実の割合が最も高くなっている。8 地区では、NPO やボランティア団体、各種団体・サークル等の育成や活動支援の充実、地域のイベントの充実(高鍋城灯籠まつりなど)の割合が最も高くなっている。

問12



問13 各分野における今後の町民と行政の協働のあり方

町民参画の意向について、「町民主導」に+2点、「町民主導だが、行政の一部支援による協働」に+1点、「町民と行政が同等の関与協働」に0点、「行政主導だが、町民の一部参加による協働」に-1点、「行政主導」に-2点とし、合計を「無回答」を除いた回答数で割り、平均値を算出している。平均値が0を上回れば町民主導型であるとし、0を下回れば行政主導型であることを示している。また、0に近ければ、町民と行政が同等の関与協働するべきであることを示している。

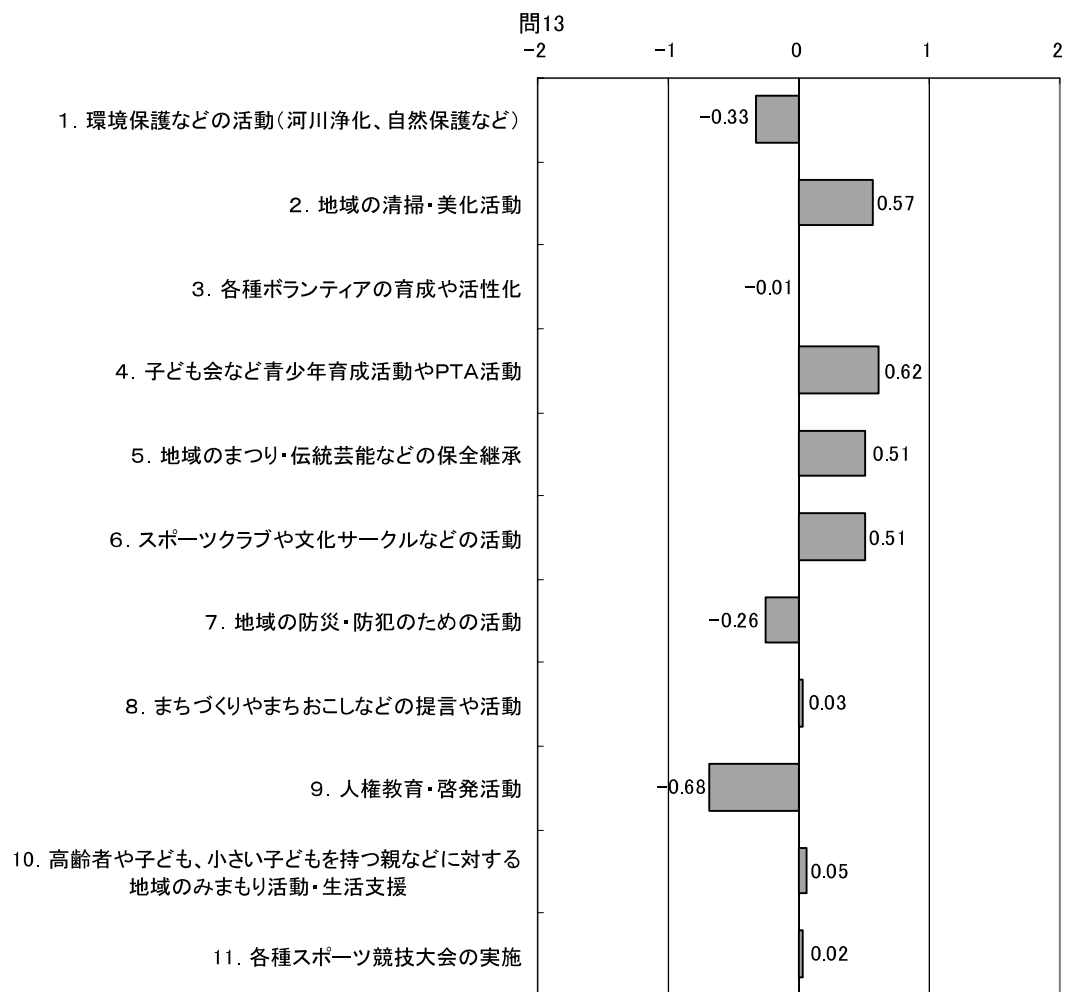
なお、この場合の「+と-」については、分析の便宜上、付けている符号であり、良い悪いの判断を示すものではない。

「地域の清掃・美化活動」「子ども会など青少年育成活動やPTA活動」「地域のまつり・伝統芸能などの保全継承」「スポーツクラブや文化サークルなどの活動」では、町民が主な主体である分野として考えられていることを示している。「各種ボランティアの育成や活性化」「まちづくりやまちおこしなどの提言や活動」「高齢者や子ども、小さい子どもを持つ親などに対する地域のみまもり活動・生活支援」「各種スポーツ競技大会の実施」では、値が比較的0に近く、町民と行政が同等の関与協働をする分野であると考えられている。「環境保護などの活動(河川浄化、自然保護など)」「地域の防災・防犯のための活動」「人権教育・啓発活動」については、行政が主な主体である分野として考えられていることを示している。

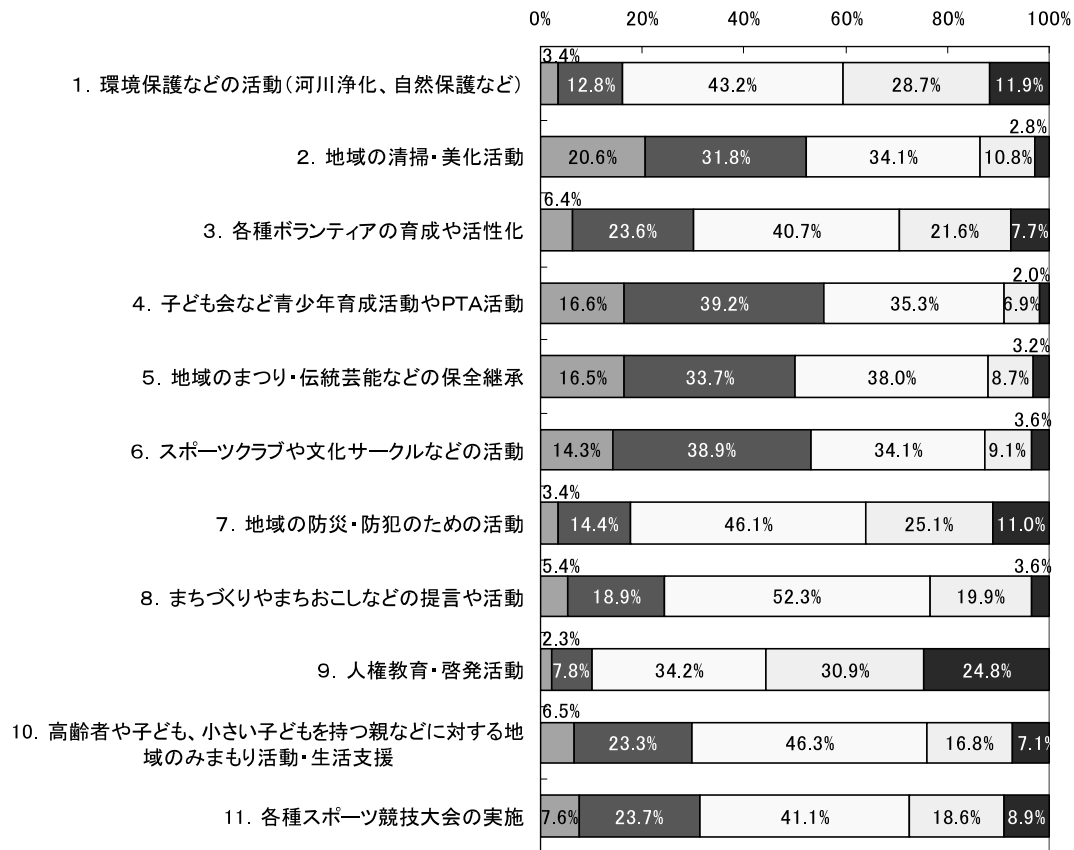
男女別では、町民主導、町民主導だが、行政の一部支援による協働の割合が比較的高い項目について、「地域のまつり・伝統芸能などの保全継承」では、男性の割合が女性よりも高くなっており、「スポーツクラブや文化サークルなどの活動」では、女性の割合が男性よりも高くなっている。

年齢別では、全体として年代が高くなるにつれて、町民主導、町民主導だが、行政の一部支援による協働の割合が比較的高くなる傾向にある。また、20～29歳では、「環境保護などの活動(河川浄化、自然保護など)」「地域の防災・防犯のための活動」「高齢者や子ども、小さい子どもを持つ親などに対する地域のみまもり活動・生活支援」について、町民と行政が同等の関与協働の割合が他の年代よりも比較的高くなっている。

地区別では、「地域の清掃・美化活動」について9地区では、他の地区よりも町民主導、町民主導だが、行政の一部支援による協働の割合の割合が特に低くなっている。



問13


☐ 町民主導

☐ 町民と行政が同等の関与協働

☐ 行政主導

☐ 町民主導だが、行政の一部支援による協働

☐ 行政主導だが、町民の一部参加による協働

高鍋町の将来像について

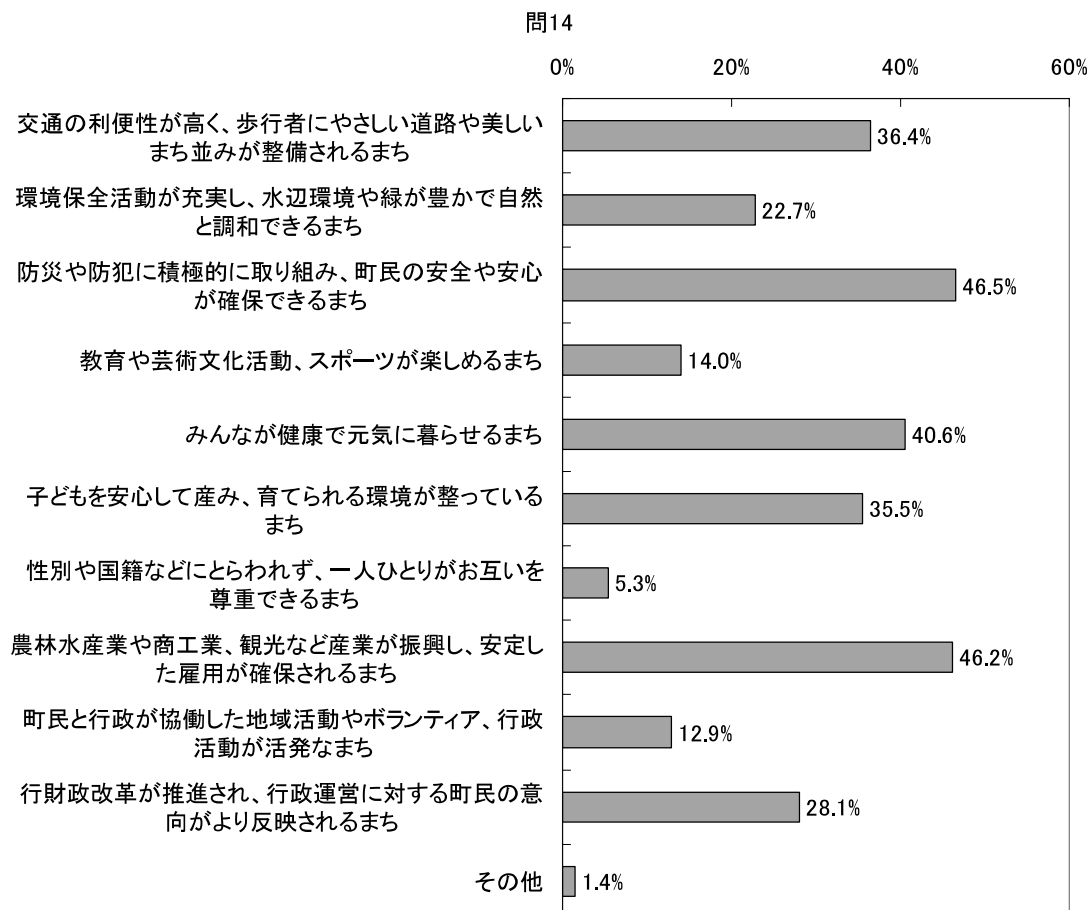
問14 高鍋町の将来のすがたについて

防災や防犯に積極的に取り組み、町民の安全や安心が確保できるまちの割合が最も高く、46.5%となっている。また、農林水産業や商工業、観光など産業が振興し、安定した雇用が確保まちについても、46.2%と割合が高い。以下、割合が高くなっているものとして、みんなが健康で元気に暮らせるまちが 40.6%、交通の利便性が高く、歩行者にやさしい道路や美しいまち並みが整備されるまちが 36.4%、子どもを安心して産み、育てられる環境が整っているまちが 35.5%、行財政改革が推進され、行政運営に対する町民の意向がより反映されるまちが 28.1%、環境保全活動が充実し、水辺環境や緑が豊かで自然と調和できるまちが 22.7%となっている。

男女別では、男性で農林水産業や商工業、観光など産業が振興し、安定した雇用が確保まちの割合が最も高く、49.4%、防災や防犯に積極的に取り組み、町民の安全や安心が確保できるまちが 43.9%、みんなが健康で元気に暮らせるまちが 39.4%と続いている。女性では、防災や防犯に積極的に取り組み、町民の安全や安心が確保できるまちの割合が最も高く、49.2%となっており、次いで、農林水産業や商工業、観光など産業が振興し、安定した雇用が確保まちが 44.6%、みんなが健康で元気に暮らせるまちが 41.1%となっている。

年齢別では、20～29 歳と 30～39 歳で、子どもを安心して産み、育てられる環境が整っているまちの割合が最も高くなっている。40～49 歳と 50～59 歳では、農林水産業や商工業、観光など産業が振興し、安定した雇用が確保されるまちの割合が最も高い。60～69 歳では、防災や防犯に積極的に取り組み、町民の安全や安心が確保できるまちの割合が最も高く、70 歳以上では、みんなが健康で元気に暮らせるまちの割合が最も高くなっている。

地区別では、みんなが健康で元気に暮らせるまちでは、10 地区からの割合が高く、農林水産業や商工業、観光など産業が振興し、安定した雇用が確保されるまちでは、2 地区からの割合が高くなっている。



問15 高鍋町の魅力や誇り、今後生かしていくべき地域資源などについて

農業(キャベツ、茶、白菜など)の割合が 33.4%と最も高く、以下、割合が高いものとして、天然牡蠣(かき)が 28.4%、舞鶴公園(城址、城堀)が 28.0%、城下町としての歴史・風土が 27.3%、高鍋湿原が 24.5%、石井十次が 22.7%、高鍋温泉が 21.0%と続いている。

男女別では、男女ともに農業(キャベツ、茶、白菜など)の割合が最も高く、男性(33.4%)、女性(33.5%)となっている。男性では、続いて、舞鶴公園(城址、城堀)の割合が 32.2%、城下町としての歴史・風土が 30.9%と割合が高くなっている。女性では、天然牡蠣(かき)が 30.4%、高鍋湿原が 25.6%と続いている。

年齢別では、20～29 歳、30～39 歳で天然牡蠣(かき)の割合が最も高くなっており、また、20～29 歳ではサーフィン、30～39 歳では、舞鶴公園(城址、城堀)の割合も高くなっている。40～49 歳では、農業(キャベツ、茶、白菜など)の割合が最も高く、天然牡蠣(かき)、石井十次の割合も高い。50～59 歳、60～69 歳、70 歳以上では、農業(キャベツ、茶、白菜など)の割合が最も高い。また60～69 歳と70 歳以上では、舞鶴公園(城址、城堀)、城下町としての歴史・風土の割合も高い。

地区別では、農業(キャベツ、茶、白菜など)では、2 地区、9 地区、10 地区、11 地区の割合が高く、天然牡蠣(かき)では、1 地区の割合が特に高くなっている。また、舞鶴公園(城址、城堀)では、2 地区の割合が高く、城下町としての歴史・風土では 1 地区、3 地区、4 地区の割合が高い。

